

# 口頭発表 C

## 高等学校と保健所と看護系大学の3者連携による高校生に対するピアエデュケーションの効果

キーワード：ピアエデュケーション、助産学生、高校と保健所と看護系大学の連携

○田崎充子<sup>\*1</sup>、坪川トモ子<sup>\*2</sup>、赤羽礼子<sup>\*3</sup>、渡邊典子<sup>\*4</sup>

<sup>\*1</sup>新潟県新発田保健所、<sup>\*2</sup>新潟県新津保健所、<sup>\*3</sup>新潟県立新発田南高等学校、<sup>\*4</sup>新潟青陵大学

### I. 目的

A保健所がB高校において実施したC大学助産学生によるピアエデュケーションの効果を明らかにする。

### II. 方法

#### 1. ピアエデュケーション実施概要

- (1) 対象：1年生全学級（6学級）／1回／年度
- (2) ピアエデュケーター：看護系大学助産学生 18人
- (3) テーマ：「自分で決める性行動～望まない妊娠と性感染症を防ぐために～」
- (4) プログラム：①ブレインストーミング、②ロールプレイング、③Q&A、④講義、⑤まとめ
- (5) 実施方法：助産学生 2～3人で1学級を担当
- (6) 事後評価：授業終了後の自由記載による一言感想。
- (7) 倫理的配慮：感想依頼時は、目的、匿名性の確保、自由意思による参加、不利益が生じない旨等を説明した。

2. 研究の対象 5年間の受講生 915人のうち記載があった860人分の感想（男子351人、女子503人、性別不明6人）

3. 分析方法 ①「学び」「考え等の変化」の部分抽出し（アイテム化）、②類似アイテムをグループ化し表題をつけ（サブカテゴリー化）、③サブカテゴリーを大別し表題をつけた（カテゴリー化）。研究者による偏りを少なくし客観的に分析するため、研究者4人で実施した。カテゴリー別の男女別の比較はカイ2乗検定を用いた。

### III. 結果

「学び」「考え等の変化」から1,162アイテムを抽出、20のサブカテゴリー、6のカテゴリーに分類された（表1）。

表1 学びや考え・気持ちの変化のカテゴリー

カテゴリー	サブカテゴリー	アイテム数
A. ピアエデュケーションについて (n=437)	1.新しく知った・わかった	159
	2.ためになった・学べて良かった	142
	3.楽しかった・楽しく聞けた	72
	4.お礼	23
	5.大学生でよかった	22
	6.わかりやすかった	15
	7.また受けたい	4
B. 自分について (n=270)	8.気をつける・学びを活かす	137
	9.自分を大切にする・自分で守る	77
	10.自分事として考える	56
C. 性行動について (n=171)	11.安易に気軽に性交渉しない	64
	12.性の大切さ	56
	13.コンドーム・避妊・安全なSEX	51
D. 性感染症について (n=108)	14.感染症はこわい	67
	15.HIV・性感染症等の学びは大切	41
E. 命について (n=94)	16.中絶の賛否・望まない妊娠防止	60
	17.命の大切さ	34
F. 他者との関わりについて (n=64)	18.相手への思いやり・自分勝手にしない	40
	19.親への感謝	15
	20.パートナー選び	9
G. その他		18

#### 1. サブカテゴリーの分類結果

サブカテゴリー全体では、「新しく知った・わかった」「ためになった・学べて良かった」「気をつける・学びを活かす」が多く、次いで「自分を大切にする・自分で守る」「楽しかった・楽しく聞けた」等であった。

#### 2. 男女別サブカテゴリーのアイテム数割合の上位比較

男女ともに上位3位までは、「新しく知った」、「ために

なった」、「学びを活かす」。4位以降は、男子は「性の大切さ」、「楽しく聞けた」、「避妊・安全なSEX」、女子は「自分を大切にする」、「望まない妊娠防止」で男女に違いがみられた。

#### 3. アイテム数の男女の比較

女子が有意に多いサブカテゴリーは3項目、男子は1項目であった（表2）。

注)有意差あるカテゴリーのみ抜粋	カテゴリー	全体n=860		結果	
		男n=351	女n=503	P値*	
9.自分を大切にする・自分で守る	男	16	4.6	0.0002	p<0.01
	女	59	11.7		
10.自分事として考える	男	15	4.3	0.024	p<0.025
	女	41	8.2		
16.中絶の賛否(望まない妊娠防止)	男	13	3.7	0.0015	p<0.025
	女	47	9.3		
18.相手への思いやり・自分勝手にしない	男	25	7.1	0.004	p<0.05
	女	15	3.0		

\* $\chi^2$ 検定 n.s. non-significant

### IV. 考察

1. ピアエデュケーションの受け止められ方:サブカテゴリー分類の結果から、同年代に近い人からの性教育は、肯定的で共感を高め受け入れられやすいと考える。特に、助産学生が、助産実習を通して学び感じた命の大切さ、人工妊娠中絶の現実、相手への思いやりや親への感謝等を随所で伝えたことの効果であり、助産学生の強みと考えられる。さらに、参加型プログラムにより、楽しく進められたことが高校生の関心度を高め、行動の動機づけに有効と考える。

2. 学びや考え・気持ちの変化について：自分自身や性、相手への思いやり、学びを活かしたい等の気持ちの変化が見られることから、性の自己決定の大切さの理解を促し、安易な性行動の抑制につながると考える。

3. 学びの男女差:自分で決める性行動をテーマにした性教育は、女子には「自分事としてとらえ、自分を大切に守る」「望まない妊娠防止」のことを、男子には「相手への思いやりと自分勝手にしない」について有効と考える。

### V. 結論

高校生の学びや考え等の変化は、1,162のアイテム、20のサブカテゴリー、6のカテゴリーに分類でき、

1. 「新しく知った」「ためになった」「学びを活かす」が多く、肯定的に受け止められていた。

2. 男女比較では、女子は「自分を大切にする・自分で守る」、男子は「相手への思いやり」が多かった。

以上から、助産学生によるピアエデュケーションは効果的であることがわかった。なお、高校、保健所及び看護系大学との連携による有効性の検証は今後の課題とした。

#### <参考文献>

安達久美子・高田昌代・西澤由香,他. ピアエデュケーションを用いた性教育に対する高校生の受け止め方. 神戸市看護大学紀要, 2006; 10: 33-41.